

中 I

【話すこと（やり取り・発表）】

Stage Activity I

“All about Me” Poster

1 「札幌 CAN-DO スタンド」の形での学習到達目標（小中つながり編）との関連

- 自分が好きなことやふだんの生活について、小学校で学習した語句や表現などを用いて、即興でたずねたり答えたりすることができる。【I1】
- 自分が好きなことやふだんの生活について、小学校で学習した語句や表現などを用いて、発表することができる。【S1】

2 単元名・パフォーマンス評価の目標

単元名：NEW HORIZON English Course I 第1学年

『Stage Activity I “All about Me” Poster 』

自分の好きなことなど自分を紹介するために、つながりのある文章をポスターに書き、ポスターを用いて発表することができる。更に、発表後の質問に即興で応答することができる。【話すこと [やり取り]】【話すこと [発表]】

3 単元の学習内容

校時	学習内容	学習活動・言語活動
指導前	学びのための評価 発表物作り “All about Me!”	①スピーチ原稿の作り方、発表の仕方、質問やその受け答えについての自己評価と他者評価の仕方
1～3		①導入 ②自己紹介のモデル文を読んで内容を理解し、自己紹介のイメージをもつ ③自己紹介のやり取りをするに当たって、知りたい表現やできるようになりたいことを具体化する ④マッピングを用いて、話す内容を関連付ける
4～7 (評価)	帯活動で自己紹介発表と質疑応答	①発表と質疑応答 ②振り返りシートで自己評価と他者評価 

4 パフォーマンステスト例

(1) 内容 プレゼンテーションと Q&A セッションを通して自分を知ってもらう。

(2) パフォーマンステストの実施方法・留意点

- ① 発表生徒は、自作の「All about me!」ポスターを見せながら自己紹介をする。
- ② 発表は一人当たり1分以内。
- ③ 発表後に、聞いている側の生徒（オーディエンス）は、発表者に質問をする。
- ④ 発表者は、オーディエンスの質問に答える。以下の点について意識して取り組む。
 - ・発表者は質問に答える。Yes/No で答えられる質問には、もう一文足す。
 - ・質問や応答が聞きとれなかった場合、聞き返す。
 - ・質問や応答が伝わらない場合や理解されない場合は、言い直したり、言い換えたりする。
 - ・相手の言っている意味が分からなかった場合は、粘り強く聞き返す。



パフォーマンステスト例（中学校）

(3) 指導のポイント

①事前指導

- ・相手に自分のことをよく知ってもらうために発表の仕方や内容を工夫するように促す。
- ・下記のように、質疑応答を継続させるための表現などについて、知っていることと知りたいことを整理する。(K.W.L表)

※K（知っていることや知っている表現）、W（知りたいことや知りたい表現）

Know（知っていること）	Want to know（知りたいこと）	Learned（学んだこと）

②事後指導

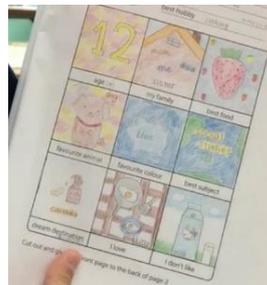
- ・何が分かったか、できるようになったかを K.W.L 表の L の欄に記入する。
- ・今後、使ってみたい表現などを整理する。

5 本單元における「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」における評価規準例

		a	b	c
知識・技能	発音	正しい発音、強勢、区切りで話している。	ほぼ正しい発音、強勢、区切りで話している。	B を満たしていない。
	流暢さ	発表では考えながら話すことができるよどみなく話、質問への回答に一文足すなど情報量がある。	発表でよどみなく話すか、一文足すかのどちらかが見られる	B を満たしていない。
思考・判断・表現	発表の構成	ポスターを効果的に使いながら、自分の紹介について、聞き手に分かりやすく伝えている。	ポスターを使いながら、自分の紹介について述べている。	B を満たしていない。
	質問に対する応答	相手の質問を理解して、聞き手が分かりやすいように伝えたり、応答が理解できているか確かめたりしている。	相手の質問を理解して、聞き手が分かりやすいように伝えている。	B を満たしていない。
取り組みの態度	態度	円滑なコミュニケーションとなるよう、聞き返したり、言い直したり、話題を広げたりなどして対話を継続しようとしている。	聞き返したり言い直したりするなどして、対話を継続しようとしている。	B を満たしていない。

6 留意点

- (1)CAN-DO に対しては自己評価で記録する。
- (2)自己評価については、探究を通して得た気付き疑問、課題を記録しておくといよい。
- (3)作成物（右の写真・図を参照）



- ・“All about Me!” は文だけではなく、絵や数字などを描くこととするとよい。事前に書いた英文を読み上げるだけの発表とならないよう、工夫が必要である。
- ・資料の作成には 1 人 1 台端末の活用も有効である。

All about Me		
Name: _____		
Please call me: _____		
Birthday: _____		
Elementary School: _____		
This is me		
My age	My family	Best food
My favourite animal	My favourite book	My favourite sport
My favourite subject	Movie	Morning routine
I love	I don't like	My dream destination

中 I

【話すこと（発表）】

Unit9

Think Globally, Act locally

1 「札幌 CAN-DO スタンド」の形での学習到達目標（小中つながり編）との関連

○自分が体験したことについて、事実や自分の考え、気持ちなどをまとめ、発表することができる。【S3】

2 単元名・単元の目標

単元名：NEW HORIZON English Course I 第1学年

『Unit9 Think Globally, Act Locally』

自分たちにもできる国際協力について、互いの発表を視聴することを通して改善点を見付け、聞き手に分かりやすくなるよう工夫しながら伝えることができる。また、他者の発言を理解し、自分の意見を伝えることができる。【話すこと [発表]】

3 単元の学習内容

校時	学習内容	学習活動・言語活動
指導前	want to～の使い方(Unit3) 読み物教材を用いた学習 (Unit6,7)	①want to を用いて、自分のしたいことを伝える ②写真を用いて説明する読み物教材の内容を理解する
1～4	本文の内容理解 want to～を用いたペア活動	①導入(Unit9の扉写真から、水資源との関わりに気付く) ②国際協力に関連する読み物教材の内容理解(Pre,S1,S2) ③行きたい国とそこでしたいことをペアで伝え合う(MA)
5～6	本文(Story3)の内容理解 ペアでのオリジナル対話文の 作成と練習	①本文の内容理解と一部を入れ替えて音読練習 ②教科書を基にしたオリジナル対話文の作成と練習 ③中間発表をタブレット端末で録画し、他のペアの良い 点を積極的に見つけて取り入れ、他のペアへ助言
7～8 評価	本番発表	①本番発表をタブレット端末で録画し、全体で共有する ②他のペアの発表を聞き、自分の考えを表現する

Your Original Dialog

A: How do they (does she / he) look?

B: They look

★予想される生徒の考え: happy だけではなく、sad, tired, hard, serious etc

We need to help them.

A: What do you want to do for them / him / her?

B: I want to in Japan.

★予想される生徒の考え: think about them, study hard, save resources etc

パフォーマンステスト例（中学校）

4 パフォーマンステスト例



(1) 内容

- ① 教科書の写真を説明したり、自分の考えを伝えたりする対話文をペアで作成する。
- ② 聞き手に効果的に伝えるための表現について工夫し、ペアで練習する。ICTの活用も可能。

(2) パフォーマンステストの実施方法・留意点

- ① 発表生徒(ペア)は、教科書の写真をモニターで表示しながら、対話文を発表する。
- ② 「写真を説明し考えを述べる」役割を交互に行い、一つのペアにつき、2種類の対話文を発表する。

- ③ 練習中に中間発表を録画し、他のペアの発表を視聴することで、本番に向けて改善を図る。
- ※③に関して、次の2点について留意し、中間発表を視聴しながらワークシートにメモを取る。

中間発表での取組が本番での改善につながっていたか、粘り強さや自己調整力を見る評価に生かすことも可能

- ・他のペアの発表を観察し、良かった点を自分たちの発表に取り入れる。
- ・他のペアの良い点や改善点をアドバイスする。



(3) 指導のポイント

①事前指導

- ・Unit3で学習した want to~の使い方を、本UnitのMini Activityでも復習する。
- ・聞き手に伝わりやすい表現の工夫について意識し、実践を重ねながら、本文を読み進める。

②事後指導

- ・本番発表後に感じたそれぞれの意見について全体共有をし、次の活動の意欲につなげる。
- ・本番発表についても全ペアを録画し、学級を超えて高評価の発表を紹介できるようにする。

5 本単元における「話すこと[発表]」における評価規準例

		a	b	c
技能 知識	発音 区切り	正しい発音、強勢、区切りで話している。	ほぼ正しい発音、強勢、区切りで話している。	Bを満たしていない。
思考 判断 表現	内容 考えの 整理	自分たちにもできる国際協力について、聞き手に分かりやすくなるように写真を工夫して活用しながら伝えている。	自分たちにもできる国際協力について、学習した表現を活用しながら、伝えている。	Bを満たしていない。
主体的 に 取り組む 態度	態度	自分たちにもできる国際協力について、聞き手に分かりやすくなるように写真を工夫して活用しながら伝えようとしている。	自分たちにもできる国際協力について、学習した表現を活用しながら、伝えようとしている。	Bを満たしていない。

6 留意点

中学校ではスピーチがよく行われるが、実物や写真などを見せながら紹介する Show & Tell と事前にスピーチ原稿を書いて全文を暗唱したり、原稿を持って話したりする発表が多いと思われる。言語活動の計画にあたって、即興でスピーチする、メモを基にして話す、視覚情報を用いながら発表するなど、様々なタイプのものを設定するとよい。教科書本文の内容について、事実や自分の考えなどを整理して話す言語活動を日常的に設定することで、話す力の伸びが期待できる。

中2

【書くこと】

Stage Activity I

A Message to Myself in the Future

1 「札幌 CAN-DO スタンド」の形での学習到達目標(小中つながり編)との関連

○自分の予定や将来の夢などについて、意見や理由を加えてつながりのある文章を書くことができる。【W4】

2 単元名・単元の目標

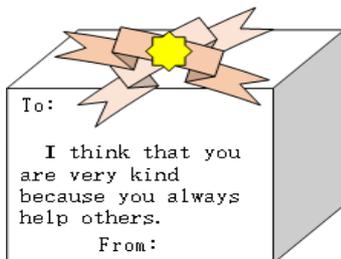
単元名：NEW HORIZON English Course2 第2学年

『Stage Activity I A Message to Myself in the Future』

キャリアカウンセラーになりきり、相手を励ますメッセージや、相手に合った仕事をすすめるために、既習の活動や表現を使いながら質問やアドバイスを書くことができる。また、受け取ったメッセージやアドバイスを基に、将来の自分へメッセージを書くことができる。【書くこと】

3 単元の学習内容

校時	学習内容	学習活動・言語活動
1	キャリアカウンセリング活動の準備（全体・個人・グループ）	①新出単語（職業名や、各職業に必要な性格やスキルに関連する語句）の確認 ②メッセージ書き ③「カウンセリングシート」の準備
2・3 (評価)	キャリアカウンセリング活動（グループ）	①「カウンセリングシート」の作成 ②キャリアカウンセリング活動 ③「アドバイスシート」の作成（グループ内の相互評価）
4 (評価)	10年後の自分へのメッセージ書き（個人）	①自分に向いていること、興味・関心のあること、将来やってみたいことを書く。
5	メッセージ発表（全体）	①自分へのメッセージの発表



(○○)'s Counseling Sheet

○ Q1: What do you usually do in your free time?

○ A1: ○○ usually plays sports at a city gym.

○ Q2: What subject do you like?

○ A2: ○○ likes P.E.

○ Q3: Which do you like, to do things alone or to do things with a team?

○ A3: ○○ likes to do things with a team.

Advice Sheet for (○○)

I think you can be a (good Japanese teacher because you like reading books. Also, you are good at writing compositions and making speeches.)

パフォーマンステスト例（中学校）

4 パフォーマンステスト例

(1) 内容

- ・人の性格を表す形容詞や接続詞 that や because を用いて、相手の良いところを伝え、励ます肯定的なメッセージを書く。ICTの活用も可能。
- ・既習の活動（教科書 P39/Unit3 MiniActivity , Speak&Write）を参考にして、相手をよく知るための質問と応答を書いた「カウンセリングシート」を書く。質問への応答は適宜メモし、新たな質問につなげる材料とする。
- ・カウンセリングの内容に基づき、相手に向いている仕事を伝える「アドバイスシート」を書く。
- ・受け取ったメッセージやアドバイスを基に、将来の自分に向けたメッセージを書く。



(2) パフォーマンステストの実施方法・留意点

- ・個人で書いた英文をグループ内で相互評価することで、間違いを発見したり、より良い表現となるような工夫が生まれたりするようにする。
- ・将来の自分へのメッセージ書きや発表時には、生徒自身の自己評価や相互評価に加え、ALTを含む複数の教員での指導や助言が得られることが望ましい。

(3) 指導のポイント

①事前指導

- ・Unit2 で学習した接続詞（that, because など）の使い方を復習する。
- ・Unit3 の Mini Activity でペアに質問した内容を思い出し、積極的に活用する。

②事後指導

- ・手本となるライティング作品の共有。
- ・教師のコメント付きの評価シートを用いたフィードバック。



5 本單元における「書くこと」における評価規準例①～「アドバイスシート」

		a	b	c
思考・判断・表現	内容の適切さ	キャリアカウンセラーになりきって、相手への肯定的で具体性を伴うメッセージを考え、理由を加えるなどして、説得力のあるアドバイスを書いている。	キャリアカウンセラーになりきって、相手に適切なアドバイスを与えるために、感じたことや自分の意見を整理して、書いている。	Bを満たしていない。
主体的に取り組む態度	相手意識	キャリアカウンセラーになりきって、相手に向いている仕事をすすめるため、より具体的な内容で相手を励ますアドバイスをしようとしている。	キャリアカウンセラーになりきって、相手に向いている仕事をすすめるために、アドバイスをしようとしている。	Bを満たしていない。

5 本單元における「書くこと」における評価規準例②～「10年後の自分へのメッセージ書き」

		a	b	c
思考・判断・表現	構成	アドバイスから気付いたことや分かったことをまとめたものを基にして、自分に合うと思う仕事について考え、具体例や理由などを加えて書いている。	アドバイスから気付いたことや分かったことをまとめたものを基にして、自分に合うと思う仕事について考え、教科書の構成を参考にしながら、書いている。	Bを満たしていない。
主体的に取り組む態度	態度	アドバイスから気付いたことや分かったことをまとめたものを基にして、自分に合うと思う仕事について考え、具体例や理由などを加えて書こうとしている。	アドバイスから気付いたことや分かったことをまとめたものを基にして、自分に合うと思う仕事について考え、書こうとしている。	Bを満たしていない。

中2

【話すこと（発表）】

Unit6

Research Your Topic

1 「札幌 CAN-DO スタンド」の形での学習到達目標（小中つながり編）との関連

クラスで人気のあるものなどについて、インタビューを通して聞き取った情報と自分の気持ちなどを整理して、発表することができる。【S5】

2 単元名・単元の目標

単元名：NEW HORIZON English Course2 第2学年

Unit6 『Research Your Topic』

学級でインタビューした調査の結果についてグラフや表にまとめ、それらを効果的に活用しながら調査結果を伝えるために、既習事項や教科書本文の語句を用いて説明することができる。

【話すこと [発表]】

3 単元の学習内容

校時	学習内容	学習活動・言語活動
1～9	①新出語句の確認 ②言語材料の確認 ③言語活動 ④本文の確認 ⑤調査、調査結果のまとめ	①New words の練習をする。 ②言語材料（比較級、最上級、同等比較）を学習する。 ③言語材料を使って、言語活動を行う。 ④教科書本文の概要を捉える。 ⑤各自が学級で調査を行い、その調査結果について、端末を用いて、グラフや表にする。
10～11 (評価)	①ペア活動① ②語句、表現の確認 ③ペア活動② ④ペア活動③ ※ポスターセッションでの活動も有効である。 (教科書 p97 参照)	①グラフや表を活用しながら、ペアの相手に即興で伝える。その後、役割を交代して同様に伝える。 ②教科書 p.88 を開き、どのような表現を使うと、グラフや表の特徴を効率よく説明できているのか、ペアで話し合い、教科書に線を引く。また、文と文の繋がりが良くなったり、説明に説得力が増したりする表現についても考え、端末または辞書で調べる。 ③学んだ表現を生かして、ペアで協力し、再度、表やグラフを即興で説明する練習を行う。 ④新しいペアになる。一人がそのグラフや表を使いながら、英語でペアに伝える。
12	Unit Activity ①交通手段の情報を整理 ②ライティング ③級友と意見交流	①交通手段の情報を確認し、メモ欄に英文で書く。 ②自分の意見を英文で書く。 ③グループ（ペア）になり、使いたい交通手段とその理由をたずねあう。準備した英文をただ読み合うだけではなく、即興で質問したり、その質問に対して答えることを意識する。

パフォーマンステスト例（中学校）

4 パフォーマンステスト例

(1) 内容

- ・前時にまとめた調査結果（グラフや表など）を提示しながら、相手に英語で伝える。
- ・既習の語句や表現を確認し、それらを使いながら、相手にわかりやすく、効率よく伝える。
- ・相手のプレゼンテーションを聞いて、即興でアドバイスを伝える。

(2) パフォーマンステストの実施方法・留意点

- ・ペア活動③から評価を行う。プレゼンテーションは1分程度。その後のアドバイス活動は20～30秒程度が目安となる。T2やALTにも協力してもらって、時間内に評価できると良い。

(3) 指導のポイント

①事前指導

- ・Unit6の単元のみならず、普段の授業から帯活動として即興的なやり取りの活動を行う。（即興的なやり取りの活動＝small talk, 1 min. talk, Picture describing, debate など）
- ・繰り返し発話したり、ペアの相手を変えて何度も練習することが望ましい。様々な生徒と対話することで、相手から学び、良いと思った表現などに関しては、自分の発表に取り入れるよう、教師から促すと良い。
- ・ペア活動（練習中）においては、教師は、1つのペアのやり取りに集中して、様子を観察する。その観察を踏まえて、良かった点や改善点を全体で共有した上で、次の練習へ進むと良い。

②事後指導

- ・何ができるようになったか、今後、このようなことができるようになりたいかを振り返りシートに記入させる。

5 本單元における「話すこと[発表]」における評価規準例

		a	b	c
思考・判断・表現	内容	インタビューして得られた調査結果について、ペアのアドバイスを生かし、グラフや表を効果的に活用し、説得力のある内容で説明している。	インタビューして得られた調査結果について、グラフや表を効果的に活用して、説明している。	Bを満たしていない。
取り組む主体的な態度	態度	インタビューして得られた調査結果について、ペアのアドバイスを生かし、グラフや表を効果的に活用し、説得力のある内容で説明しようとしている。	インタビューして得られた調査結果について、グラフや表を効果的に活用して、説明しようとしている。	Bを満たしていない。

6 留意点

本單元では、言語材料としての比較の表現に加え、データに基づいた発表をする際に用いる数値の示し方や、“Please look at the graphs.”, “According to...”, “such as”, “As a result”, “We found that...”等の表現が教科書本文のモデルスピーチで明示されている。これらの表現を調査結果をパートナーに伝える際に繰り返し活用することによって、一層の発表力の向上が期待できる。

なお、上記の評価規準例には、「知識・技能」が含まれていないが、「グラフや表が示している内容を学習した言語材料や表現を用いながら、相手に正確に伝える技能を身に付けている」といった情報の正確性を評価することも可能である。

中3

【話すこと（発表）】

Stage Activity I
My Activity Report

1 「札幌 CAN-DO スタンド」の形での学習到達目標（小中つながり編）との関連

自分やクラスメートの経験などについて、メモなどを活用しながら、具体例や感想などを加えて話すことができる。【I7】

2 単元名・単元の目標

単元名：NEW HORIZEN English Course3 第3学年

『Stage Activity I My Activity Report』

自分のこれまでの学校内・外での活動について振り返り、活動報告と今後の目標についてメモにまとめ、メモしたことを基に、クラスメートや後輩へのメッセージとして伝えることができる。【話すこと [発表]】

3 単元の学習内容

校時	学習内容	学習活動・言語活動
指導前 (既習)	Small Talk	帯学習として、1つのトピックに対してペアで質問し合うなどのやりとりを短時間で行う。
1	活動報告発表の準備	①新出語句の確認 ②STEP1 のリスニング「活動報告を聞こう」 ③自分の報告内容や目標のキーワード書き ④キーワードをもとに即興で発表（録画1） ⑤ ③についての簡単なポスター作成。(visual aids)
2	アドバイス活動 (2～4人グループ)	①前回の原稿の書き起こし ②グループ内でのアドバイス活動 ③原稿の書き直し ④グループ内での発表（録画2） ⑤自己評価
3	アドバイス活動 (全体)	①ギャラリーウォークなど全体でのアドバイス活動 ②最終原稿作成 ③発表練習
4 (評価)	活動報告発表（全体の前で） パフォーマンスを評価する	①全体の場で発表（録画3） ②録画1・2・3を比べながら自己評価 ③教師による講評・振り返り

4 パフォーマンステスト例

(1) 内容 以下の4つの内容を必ず盛り込んでメモを作成、活動報告を行う。

- ①何について話すのか ②どんな経験をしたのか（しているのか）
③今後の目標 ④メッセージ

パフォーマンステスト例（中学校）

《生徒発表例》

<p>①何について</p> <p>↓</p> <p>②したこと ・経験</p> <p>↓</p> <p>③今後の目標 ④みんなへの メッセージ</p>	<p>Hi, everyone. Today I'm going to tell you about my club activities.</p> <p>I'm a member of the soccer team.</p> <p>I've been a starter since last spring. I've been practicing very hard to improve my corner kicks.</p> <p>We're going to play in the national tournament next month. Those will be our last games in junior high.</p> <p>My goal is to win first prize. We'll do your best, so please come and support us!</p> <p>Thank you.</p>
---	---

(2) パフォーマンステストの実施方法・留意点

- ①教室の前方で一人ずつ実施。（ビデオ録画）
- ②ポスターを活用しながら、自分の活動報告を行う。

(3) 指導のポイント

①事前指導

- ・帯学習として、相手に質問したり、自分の意見を言ったりする活動を反復する。
- ・Unit1 や Unit2 で学習した現在完了形や現在完了進行形、Unit3 で学習した It to 構文の使い方などを復習する。
- ・分かりやすくするための工夫（目線、ジェスチャー、抑揚）について、互いにアドバイスするよう、指導する。

②事後指導

- ・録画1・2・3を見比べて、自分のパフォーマンスの変容を振り返る機会を設ける。
- ・発表の良かった点、改善点などをきちんと生徒にフィードバックする。
- ・高評価の発表を再度動画で紹介するなどして、次の活動の意欲付けにつながる講評を行う。

5 本単元における「話すこと[発表]」における評価規準例

		a	b	c
技能 知識	発音 区切り	正しい発音、強勢、区切りで話している。	ほぼ正しい発音、強勢、区切りで話している。	Bを満たしていない。
思考 判断 表現	内容 考えの 整理	学校内外での活動について振り返り、活動報告と今後の目標について書いたメモを基に、聞き手に分かりやすくなるよう工夫しながら、伝えている。	学校内外での活動について振り返り、活動報告と今後の目標について書いたメモを基に、メッセージを伝えている。	Bを満たしていない。
主体的 態度 に取り組む	主体性	学校内外での活動について振り返り、活動報告と今後の目標について書いたメモを基に、聞き手に分かりやすくなるよう工夫しながら、伝えようとしている。	学校内外での活動について振り返り、活動報告と今後の目標について書いたメモを基に、メッセージを伝えようとしている。	Bを満たしていない。

6 留意点

録画した内容を、実際に後輩にメッセージとして発信することを取組のゴールとして設定すると、コミュニケーションの目的、場面、状況等が明確になり、意欲喚起につなげることもできる。

1 「札幌 CAN-DO スタンド」の形での学習到達目標（小中つながり編）との関連

自分の経験などについて、具体例や感想などを加えて、まとまりのある文章を書くことができる。【W7】

※下記単元は、3学期の能力記述文「社会的な話題について、身に付けてきた語句や表現を用いて、聞いたり読んだりしたことをもとに、理由を挙げて意見を書くことができる。」【W9】に関連した学習である。到達時期としては卒業時までを目標としたい。

2 単元名・単元の目標

単元名：NEW HORIZEN English Course3 第3学年

『Let's Write2 記事への意見—投稿文—』

社会的な話題について書かれた投稿文を読んで、その内容を理解し、賛成と反対の両方の立場に立って、その理由や根拠について深く考えることができる。グループ内で賛成か反対かを決め、その立場に応じて、既習文法や語句、表現を選択したり、付け加えたりして、説得力のある投稿文を書くことができる。【書くこと】

3 単元の学習内容

校時	学習内容	学習活動・言語活動
1	社会的な話題に対しての投稿文作成 アドバイス活動	①p.45 記事の内容確認（ペアで確認→全体共有） ②記事に対する賛成、反対意見とその理由、根拠を考え、英文を作成（個人で考える→グループで話し合い） ③グループで賛成、反対の立場のどちらかを決定 ④Introduction, Body, Conclusion で書く部分を分担し、英文を作成 ⑤グループで完成した英文をタブレットで全体共有 ⑥良いところ、改善点について、アドバイス書き
2	推敲、投稿文完成	①アドバイスを読み、グループでもう一度話し合いを行って、推敲 ②最終投稿文作成 ③教師による評価
3 (評価)	ライティングによるパフォーマンステスト	①新たな記事の内容確認（ペアで確認→全体共有） ②賛成、反対のどちらの立場かを明確にし、そう思う理由や根拠を書く（個人作業）

4 パフォーマンス例

(I) 内容

新たな記事を読み、内容を確認した上で、賛成意見・反対意見の両面とその理由や根拠を2つ以上英語で書く。

パフォーマンステスト例（中学校）

(2) パフォーマンステストの実施方法・留意点

- ・教科書には掲載されていない記事を教師が作成する。
- ・賛成・反対の両面の立場でも意見が書きやすく、生徒にとって身近な話題の記事を準備する。

(3) 指導のポイント

①事前指導

- ・パフォーマンステストに際して、以下のポイントを踏まえて英文を書くことを指導する。
 1. 既習の語句や表現を正しく使い、書くこと。
 2. 賛成、反対意見のどちらかを明確にし、書くこと。また、その理由や根拠も最低2つ以上は書くこと。
 3. Introduction（導入：意見）, Body（本論：理由、具体例）, Conclusion（まとめ）の構成に沿って、書くこと。

②事後指導

- ・パフォーマンステストを返却し、生徒は振り返りシートに、次の課題を記入させる。
- ・良く書けている英文を全体で共有し、次のライティング活動への意欲につなげていく。

5 本単元における「書くこと」における評価規準例

		a	b	c
知識・技能	正確さ	文、文構造及び文法事項を正しく用いて、正しい語順で文を構成している。更に伝えたいことについて、整理や確認しながら書く技能を身に付けている。	文、文構造及び文法事項を正しく用いて、正しい語順で文を構成している。	Bを満たしていない。
思考・判断・表現	内容	記事に対して、賛成か反対かを明確にし、その理由や根拠を最低2つずつ書いている。	誤りが一部あるが、記事に対して賛成か反対かを書き、その理由や根拠を最低1つは書いている。	Bを満たしていない。
	構成	記事に対して、導入、本文、まとめの3つのパートに分け、聞き手に分かりやすい構成で書いている。	記事に対して、導入、本文、まとめの3つのパートに分けて構成して、書いている。	
主体的に取り組む態度	態度	グループ内で賛成か反対かを決め、その立場に応じて、既習文法や語句、表現を選択したり、付け加えたりして、説得力のある投稿文を書こうとしている。	グループ内で賛成か反対かを決め、その立場に応じて、既習文法や語句、表現を用いて投稿文を書こうとしている。	Bを満たしていない。

6 留意点

学習指導要領における「書くこと」の領域の目標のアにおいて、「正確に書く」ことについて示している。小学校での学習を踏まえ、文、文構造及び文法事項を正しく用いて、正しい語順で文を構成することや、伝えたいことについての情報を正確に捉え、整理したり確認したりしながら書くことを示している。使用できるかどうか評価する際には、書くことの「知識・技能」の「技能」が適している。